

《今号のニュース》

- 巻頭言
- 第3回自立準備ホーム懇談会開催
- 令和5年度おやさと研修会開催
- 第11回ようぼく保護司研修会
北海道ブロック大会開催
- インフォメーション
- 表彰

天理教保護司連盟

導

～MICHIBIKI～



◀ 第29号
データ版

第29号

立教187年1月25日

編集・発行 天理教保護司連盟
天理市三島町1-1 社会福祉課内
TEL: 0743-63-6161

MAIL: kyo-ho-min@tenrikyo.or.jp

巻頭言

「旬の風に乗って♪」

天理教保護司連盟委員 水島 玲子

立教172年の夏のこと。翌々年に迎える「天理教婦人会創立100周年記念第92回総会」に向けて、その3年前から国内外の各支部・教区が総力を挙げて活動させていただいていた最中。私の所属する地域においても支部婦人会主任をはじめ数名の委員が中心となって「会員決起の集い」への参加を促し、市内各方面へお声掛けに歩かせていただき、一手一つに勇んで取り組ませていただいております。

そこで、この地域に在住する近くに所属教会がない会員さんのお宅を主に訪問する活動をいたしました。あるご婦人さんのお宅を訪ねた時、初対面にも関わらず長い年月熱心に信仰してこられたその信念がひしひしと伝わり、未熟な私を心勇ませてくださったことが印象的でした。その方は様々な社会福祉活動にも積極的に携わっており、当該地域の里親会への支援もされていることも聞かせてくださいました。

それからほんの数日後に「もっと奥さんとお話したい」とお電話をくださり、わ

が家を訪ねて来られました。その時「是非、保護司になりませんか」と、明るい笑顔で一枚の紙をご提示くださいました。これは申込期限が切迫している委嘱の手続きに関するものでした。その後まもなく、観察所に顔合わせということで普段着のまま一人で訪ねると、そこには保護司会の会長、課長、所長様がおられ、「退職する者の後の後任をお願いしたい」とのお話でした。突然のことで、更生保護のことは全く無知で、お道の御用をさせていただいていることをお伝えして、私には荷が重く難いとお答えしました。早速その日の夕方に「職務内容については徐々に慣れていきますのでご安心ください」と電話があり、採用となりました。後から思えば、あれは面接だったのだ！と気付きました。

これが私の保護司の委嘱の始まりとなってきたきっかけの出来事でした。ちょうど長男が中学に進学し、子育ても一段落したその矢先のことでした。まだ十数年の遅々とした歩みではございますが、ご存命の教祖に



お導きいただき、様々な場面でそのお働きを実感させていただきながら、ようぼく保護司として心を込めて勤めております。また現在に至るまで、活動に理解と協力をしてくれる家族や適宜ご指導くださる先輩保護司の先生方のご支援のお蔭であると感謝し、改めて御礼申し上げます。

保護観察に付された方々との面接をする中、「もつと早く誰かに救いの手が差し伸べられていたら…」と常々思います。そうした時、私は明るい社会を築くためには、御教えに基づいた教示ができる方々が増々必要なのではないかと思わせていただきます。

只今は教祖年祭活動の真最中。振り返ってみると、委嘱のきっかけとなったあの時の嵐のような勢いの風。「旬のお打ち出っでスゴイな。親の声を素直にお受けて声掛けすることは大切なのだな」と思わせていただいております。教祖140年祭を目標に心を定めて、これからも旬の風に乗って明るく勇んで通らせていただきたいと存じます。

第3回自立準備ホーム懇談会開催

期 日 令和5年6月25日(日)

会 場 天理教布教部社会福祉課

講 演 「自立準備ホームを始めて」

講 師 原田 浩委員

養之郷分教会前会長、天理教保護司連盟委員

参加者 33名

6月25日社会福祉課2階修室で8年ぶりの「自立準備ホーム懇談会」を開催した。当日は自立準備ホーム登録教会や関心のある教会長など33名が参加した。北嶋眞二郎委員長の挨拶ではじまり、基調講演として「自立準備ホームを始めて」と題して「もたえの里」の施設長、保護司連盟委員の原田浩氏が講演をした。原田氏は「多くの出所者を預かり、そのエピソードなど涙あり笑いあり、ようぼくとなり教会の重鎮として働いてくださる方も育っている。今、大勢の人と暮らすまた、集う教会となった」と話した。講演後、6班に分かれグループ討議でそれぞれの悩み、疑問、活動などが討議された。帰ったらすぐに自立準備ホームの登録をしますと話す数名の教会長がいた。最後に伊藤逸雄副委員長が閉会の挨拶をして終わった。

令和5年度おやさと研修会開催

期 日 令和5年8月25日(金)

会 場 天理教布教部社会福祉課

講 演 「心を操る危険な組織から人々を守るために」

講 師 白熊繁一先生

天理教中千住分教会前会長、東京保護観察所保護司

参加者 41名

おやさと研修会が8月25日、布教部社会福祉課にて開催され、連盟委員および会員に加え関心ある方々など41名が参加した。

伊藤逸雄連盟副委員長の開会の辞、村田幸喜社会福祉課長と

北嶋眞二郎連盟委員長のあいさつに続いて、白熊繁一氏が講演。カルト教団などの組織が行う実際の勧誘方法や、人々を守るためにどのような対応をしてきたのかなど、実体験を踏まえた様々な事案を映像を見ながらわかりやすく取り上げ話を進められた。引き続き、質疑応答の時間では様々な質問に丁寧に答えられ、現実的な問題を真剣に考える貴重な時間となった。

阪倉喜一郎副委員長の閉会の辞を持って研修会は終了し、櫻井詰所へ移動して意見交換会が行われ、ここでも保護司活動について和気あいあいと話が飛び交った。

第11回ようばく保護司研修会 北海道ブロック大会開催

期 日 令和5年11月28日（火）～29日（水）
会 場 北海道教務支庁
参加者 60名

令和5年11月28日～29日、北海道札幌市の天理教北海道教務支庁（奥村尚人教区長）を会場に、ようばく保護司研修会を開催した。

来賓として札幌観察所長・吉原克紀氏、北海道地方保護司連盟会長・山本康次氏、天理教布教部社会福祉課長・村田幸喜氏、北海道教区長・奥村尚人氏、記念講演講師として脚本家・久松真一氏を迎え、北海道教区・福島教区・岡山教区の各保護司、福祉に携わる方、そして連盟委員を含め、60名が研修会に参加



いる活動を発表。

休憩後、研修③『NHKドラマ「生きて、ふたたび保護司深谷善輔」を書いて』と題して、脚本家・久松真一氏が記念講演をされた。久松氏はドラマを書くまでの経緯や裏話をはじめ、論達第四号の「人救いたら我が身救かる」を引いて、自ら体験された親友への感動的なおたすけの話をされ、最後に保護司活動はおたすけにつながる大切なかけがえのない活動であると激励の言葉で締めくくられた。



脚本家 久松真一氏

一日目の研修はこれで終了。宿舎の羽幌分教会に移動し、情報交換会が開かれた。ここではようばく保護司同士の親交を深め合い、また様々な意見交換がなされ、盛況のうち

した。

最初に記念撮影が行われ、午後1時から伊藤逸雄連盟副委員長の開会の辞に続き、来賓挨拶、紹介の後、研修①「更生保護の現状と自立準備ホーム制度と課題」と題して、札幌保護観察所長・吉原克紀氏が講演をつとめられた。研修②実践報告（Ⅰ）では「天理教釧正分教会の取り組み」として坂下寛幸会長が自ら行って



に閉会となった。

二日目は研修④「天理教の社会福祉活動とおたすけ」と題して、布教部社会福祉課長・村田幸喜氏が講演され、研修⑤実践報告(Ⅱ)では「天理教男能富分教会の取り組み」として五十嵐仁会長が自ら行っている活動を発表。続いての研修⑥では、(1)「全支部に1名以上のようなべく保護司を！」については孔岩雄連盟委員が、(2)「自立準備ホームの増設」について原田浩連盟委員が、天理教保護司連盟の目標としてそれぞれ説明をした。

最後に、阪倉喜一郎連盟副委員長の閉会の言葉をもって第11回ようばく保護司研修会北海道ブロック大会を閉会した。



インフォメーション

令和6年度天理教保護司連盟総会

日時 令和6年4月25日(木) 13時～16時

内容 「人生のやり直し、本人の意思に基づく、

ふあつとした支援とは」

講師 平瀬雅樹先生

奈良大教会 神街道分教会長 社会福祉士 保護司

※同日、社会福祉大会が別紙の通り開催されます。ご参加の方は、QRコード、メール、FAX、郵送のいずれかにて「お名前」「所属団体名」を明記し、ご連絡ください。

表彰

立教百八十六年下半期に叙勲された方

○法務大臣賞 川口龍司 (奈良教区・山名大・山乃洋分)

○藍綬褒章 大脇悦子 (北海道教区・亀岡大・三石分)

誠におめでとうございました。

あとがき

これまでのやり方や体制を見直す動きが活発になってきており、自分自身も変わっていかねばならないと感じています。本年は新しいことに挑戦する年にしていきます。

高橋